

町内遺跡 21

— 令和2年度 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 —

2022

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

町内遺跡 21

—令和2年度 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—

2022

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

例言

1. 本書は令和2年度に長野原町が各種開発事業に対応して実施した、町内遺跡緊急発掘調査の報告書である。
2. 本書は令和3年度国宝重要文化財整備事業補助金で作成した。
3. 本書に掲載した7地点の調査は令和2年度国宝重要文化財整備事業補助金で実施した。
4. 調査は長野原町教育委員会直営で実施した。

調査主体 長野原町教育委員会

調査組織 教 育 長

市村隆宏（～令和3年3月31日）

小林敦子（令和3年4月1日～）

教 育 課 長

佐藤 忍

文化財保護対策室長

富田孝彦（文化財係長兼務）

文化財係

古澤勝幸（文化財専門員 令和2年4月1日～令和3年3月31日、長野原町やんば天明泥流ミュージアム館長 令和3年4月1日～）

田中秀行（学校給食係兼務 令和2年4月1日～）

高田靖之（子ども子育て支援室兼務

～令和3年3月31日）

高橋人夢（調査担当 令和2年4月1日～）

調査参加者

柿本六美（～令和3年3月31日）・坂井春栄・向出治恵・藤野麻子

5. 各遺跡の所在地は本文中に記した。
6. 本書作成にあたっての作業分担は以下の通りである。

編集・執筆：富田、高橋 遺構写真撮影：富田、高橋 図版作成：高橋、向出

7. 調査において以下の項目を委託した。

表土掘削・埋め戻し：東光建設株式会社

8. 本発掘調査における出土遺物ならびに図面・写真は長野原町教育委員会で保管している。
9. 発掘調査、整理調査及び報告書作成にあたり、次の方々・団体から御指導・御協力を賜った（五十音別敬称略）。

安済仁、大澤雄二郎、島村正一、清水大樹、中島亮、中島とし子、蜂須賀明、山本恵二、湯本登、若月隼人、有限会社アウトプランニング、イーゲート株式会社、株式会社LWC、田村合同事務所、株式会社ディウイング、トータルデイリーサポートサービス合同会社、東京電力パワーグリッド株式会社渋川支社、東電用地株式会社群馬支社、有限会社大和工務店、群馬県地域創生部文化財保護課、國學院大學、長野原町役場（建設課・産業課）

凡 例

1. 本書で使用した地図は1：2500「長野原町都市計画図」(長野原町1994)、1：25000「長野原」・「大前」である。
2. 挿図の方位は磁北を示す。
3. 挿図中の土層図のレベルは各遺跡とも、現地表面レベルを基に任意で設定している。
4. 挿図中の縮尺については、各挿図中に示してある。
5. 堆積土層の色調については、「新版標準土色帖1995年後期版」(編・著小山正忠・竹原秀雄、監修農林水産省農林水産技術会議事務局、色票監修財団法人日本色彩研究所)の色名を参考にした。
6. 挿図中のスクリントーン・記号は以下の通りである。

遺構・土層図



遺物



目次

例言

凡例

各遺跡の位置図	1
第1章 令和2年度長野原町内遺跡の概要	2
第2章 試掘確認調査	4
A. 包蔵地内	4
1. 堂光原Ⅱ遺跡	4
2. 榛木沢遺跡	7
3. 長畝Ⅱ遺跡Ⅴ	9
B. 包蔵地外	11
4. 北軽井沢字大屋原①	11
5. 応桑字小菅	13
6. 応桑字滝原	15
7. 北軽井沢字大屋原②	17

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図 各道路の位置図 (1/100,000).....	1	第 10 図 トレンチ配置図 (1/1000)・土層図 (1/20)	12
第 2 図 調査地点位置図 (1/5,000)	4	第 11 図 調査地点位置図 (1/5,000)	13
第 3 図 トレンチ配置図 (1/500)・土層図 (1/10)	5	第 12 図 トレンチ配置図 (1/1000)	14
第 4 図 堂光原Ⅱ遺跡出土遺物実測図 (1/2).....	6	第 13 図 土層図 (1/20)	15
第 5 図 調査地点位置図 (1/5,000)	7	第 14 図 調査地点位置図 (1/5,000)	15
第 6 図 トレンチ配置図 (1/600)・土層図 (1/20)	8	第 15 図 トレンチ配置図 (1/600)・土層図 (1/20)	16
第 7 図 調査地点位置図 (1/5,000)	9	第 16 図 調査地点位置図 (1/5,000)	17
第 8 図 トレンチ配置図 (1/500)・土層図 (1/20)	10	第 17 図 トレンチ配置図 (1/600)・土層図 (1/20)	18
第 9 図 調査地点位置図 (1/5,000)	11		

表 目 次

第 1 表 令和 2 年度埋蔵文化財調査一覧	2	第 2 表 堂光原Ⅱ遺跡出土遺物観察表	6
------------------------------	---	---------------------------	---

図 版 目 次

【堂光原Ⅱ遺跡】

- 図版 1 1. 堂光原Ⅱ遺跡 調査区全景 (南上から)
2. 1トレ (南から)
3. 1トレ土層 (東から)
4. 2トレ (南から)
5. 2トレ土層 (東から)

【堂光原Ⅱ遺跡・榊木沢遺跡】

- 図版 2 1. 2トレ掘り込み① (東から)
2. 2トレ掘り込み② (西から)
3. 堂光原Ⅱ遺跡出土遺物
4. 榊木沢遺跡 1トレ～3トレ (北から)

【榊木沢遺跡】

- 図版 3 1. 榊木沢遺跡 4トレ～5トレ (南上から)
2. 1トレ (南から)
3. 1トレ土層 (東から)
4. 2トレ (南から)
5. 2トレ土層 (東から)

【図版 4】

1. 3トレ (東から)
2. 3トレ土層 (北から)
3. 4トレ (南から)
4. 4トレ土層 1 (東から)
5. 4トレ土層 2 (東から)
6. 5トレ (南から)
7. 5トレ土層 1 (東から)
8. 5トレ掘り込み① (西から)

【榊木沢遺跡・長谷Ⅱ遺跡Ⅴ】

- 図版 5 1. 5トレ掘り込み② (東から)
2. 調査区試掘前風景 (南から)
3. 長谷Ⅱ遺跡Ⅴ 調査区全景 (東から)
4. トレンチ (東から)
5. トレンチ土層 (北から)

【北軽井沢字大屋原①】

- 図版 6 1. 北軽井沢字大屋原① 調査区全景 (西上から)
2. 1トレ (西から)
3. 1トレ土層 1 (北から)
4. 1トレ土層 2 (北から)
5. 2トレ (西から)

【北軽井沢字大屋原①・応桑字小菅】

- 図版 7 1. 2トレ土層 (北から)
2. 2トレ風倒木痕 (北から)
3. 応桑字小菅 調査区全景 (北上から)
4. 1トレ (北から)
5. 1トレ土層 1 (東から)

【応桑字小菅】

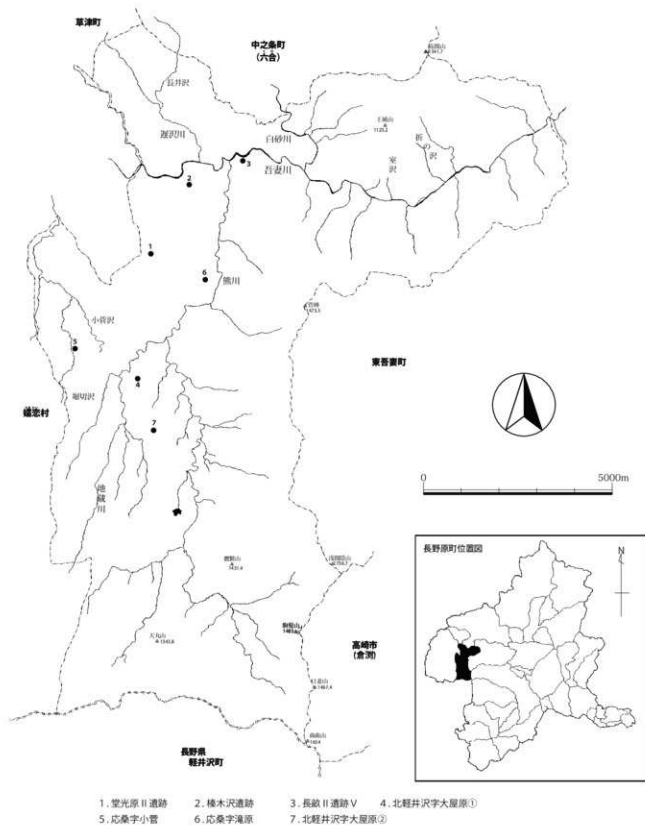
- 図版 8 1. 2トレ (東から)
2. 2トレ土層 (北から)
3. 2トレ掘り込み (北から)
4. 3トレ (北から)
5. 3トレ土層 (西から)
6. 4トレ (南西から)
7. 4トレ土層 (南東から)
8. 調査区試掘前風景 (南から)

【応桑字滝原】

- 図版 9 1. 応桑字滝原 調査区全景 (北上から)
2. 1トレ (北西から)
3. 1トレ土層 1 (北東から)
4. 1トレ土層 2 (北東から)
5. 2トレ (北西から)

【応桑字滝原・北軽井沢字大屋原②】

- 図版 10 1. 2トレ土層 (北東から)
2. 埋め戻し状況 (南から)
3. 北軽井沢字大屋原② 調査区全景 (南上から)
4. 1トレ (南から)
5. 1トレ土層 1 (東から)
- 図版 11 1. 1トレ土層 2 (東から)
2. 2トレ (南から)
3. 2トレ土層 (東から)
4. 2トレ掘り込み (東から)
5. 2トレ掘り込み断り後 (南から)
6. 3トレ (南から)
7. 3トレ土層 1 (東から)
8. 3トレ土層 2 (東から)



第 1 図 各遺跡の位置図 (1/100,000)

第1章 令和2年度長野原町内遺跡の概要

浅間山の北東麓に位置する長野原町では、令和4年1月現在で226の包蔵地（指定文化財を含む）が把握されている。この地域内において開発行為が計画された場合、事業主体者と町教育委員会文化財保護対策室との間で埋蔵文化財に関する取り扱いの協議を行い、試掘確認調査を実施している。それによって明確な遺構・遺物が検出された場合、工事計画変更の協力をお願いをして現状で保存するか、やむを得ない場合は遺跡の破壊を前提とした記録保存（発掘調査）を行っている。

令和2年度の長野原町における埋蔵文化財調査実施件数は12件であった（第1表）。その内訳は包蔵地内の確認調査3遺跡、包蔵地外の試掘調査4地点、工事立会4地点、範囲確認調査1地点である。本書では工事立会・範囲確認調査地点を除いた7件の概要を報告する。

第1表 令和2年度埋蔵文化財調査一覧

No	本書No	遺跡名	所在地	原因種類	調査面積	調査期間	備考
1	1	堂光原Ⅱ遺跡	応桑字堂光原 2171の一部	太陽光発電所建設 確認調査	75㎡	R2年5月13日	縄文土器・平安土器 包蔵地把握（新規・95） 発掘届（93-1）
2	2	榎木沢遺跡	古森字ハリヌキ沢 279-3,279-4	太陽光発電所建設 確認調査	139.5㎡	R2年5月21日 ・6月17日	遺構・遺物なし 発掘届（93-1）
3	4	北軽井沢字大屋原①	北軽井沢字大屋原 1352 - 12 他	牛舎・堆肥舎建設 試掘調査	60㎡	R2年6月8日	遺構・遺物なし
4	5	応桑字小菅	応桑字小菅 2089-3,2085- 5,2116	牛舎・堆肥舎建設 試掘調査	127.5㎡	R2年6月9日	遺構・遺物なし
5	—	旧狩宿茶屋本陣	応桑字新田 28-1	範囲確認調査	191㎡	R2年6月13日～ 7月16日、10月 12日～10月29日	土間・馬廄・便所など検出 陶磁器・ガラス製品など
6	—	嶋木1遺跡	長野原字嶋木 268-3	電柱新設 立会調査	0.66㎡	R2年6月19日	遺構・遺物なし 軽石面確認 発掘届（93-1）
7	6	応桑字滝原	応桑字滝原 1095	太陽光発電所建設 試掘調査	40㎡	R2年8月19日	遺構なし 平安土器 1点表採
8	—	立石遺跡	大津字立石 634-2 地先	接地極新設工事 立会調査	1.2㎡	R2年11月27日	遺構・遺物なし 発掘届（93-1）
9	—	洞口遺跡	大津字洞口 1046-1	接地極新設工事 立会調査	3.6㎡	R2年11月27日	遺構・遺物なし 発掘届（93-1）

No	本書 No	遺跡名	所在地	原因 種類	調査 面積	調査期間	備考
10	3	長畝Ⅱ遺跡Ⅴ	与喜屋字長畝 132-2	個人住宅 確認調査	9㎡	R2年11月30日	遺構・遺物なし 発掘届(93-1)
11	—	心桑字田通	心桑字田通 1541- 3	駐車場整備 立会調査	10㎡	R2年12月23日	遺構・遺物なし
12	7	北軽井沢字大屋原②	北軽井沢字大屋原 1353 - 2911 他	牛舎建設 試掘調査	90㎡	R3年3月4日	遺構・遺物なし

第2章 試掘確認調査

A. 包蔵地内

1. 堂光原Ⅱ遺跡



所在地	ながのほらまちおおあざおらくわあざどうこうほら 長野原町大字応桑字堂光原 2171 の一部
開発事業名	太陽光発電所建設
調査期間	令和2年5月13日
開発総面積	1,784㎡
調査面積	75㎡

第2図 調査地点位置図 (1/5,000)

立地と経過

対象地は長野原町の中央部、浅間高原地帯に位置する。標高は925 m位である。対象地が周知の包蔵地「堂光原Ⅰ遺跡 (No 184)」の隣接地であることから開発事業主と協議し、試掘調査を行うこととなった。

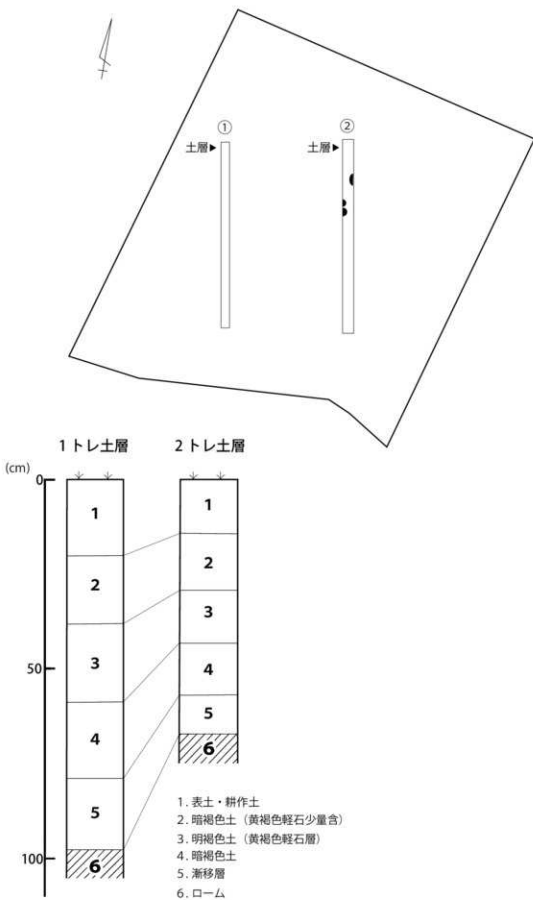
調査結果

太陽光発電所建設予定地に2本のトレンチを設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、2トレンチで掘り込みが3カ所確認された。掘り込みを断ち割ったが明確な遺構と判断するには至らなかった。従って、今回の太陽光発電所建設予定地内で建設に際し、文化的には支障はないと判断した。

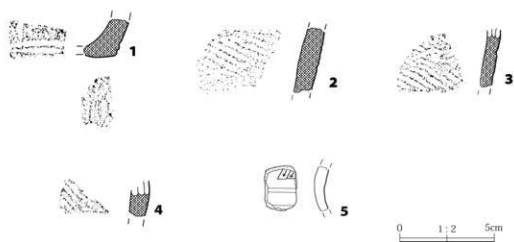
堆積土層は1・2トレンチで確認し、平安時代の天仁元(1108)年に降灰した軽石層(第3図3層)が14cm～20cm厚で確認された。

出土遺物は掘り込みの中から縄文土器1点が出土した。またトレンチ内・表面採集で縄文時代の土器数点、平安時代の須恵器・土師器が確認された。このことから、周辺に縄文時代前期前半・平安時代の遺跡の存在が想定される。

今回の調査結果を元に、新たに周知の包蔵地「堂光原Ⅱ遺跡 (No. 226)」として登録した。



第3図 トレンチ配置図 (1/500)・土層図 (1/10)



第4図 堂光原Ⅱ遺跡出土遺物実測図(1/2)

第2表 堂光原Ⅱ遺跡出土遺物観察表

調査No.	図版No.	種類	法量(長さ/口径/定径) (cm)	特徴(片割・字法等)	保存	加工・材質等	色調(外面/内面)	備考
4.1	2	縄文土器 深鉢	(2.8) / /	外面は横位平行沈線。 内面は横位土存斗。	良好	白色粘・角閃石・繊維	黒・黄緑 / 黄褐色	破片資料(底部) 2ト7
4.2	2	縄文土器 深鉢	(3.4) / /	外面は刻・縄文。内面は斜位十字。	良好	角閃石・白色粘・石英・ 繊維	黄緑 / 黒	破片資料(底部) 2ト7
4.3	2	縄文土器 深鉢	(3.1) / /	外面は無筋。 内面は無筋。	良好	繊維・石英	橙 / 浅黄緑	破片資料(底部) 2ト7
4.4	2	縄文土器 深鉢	(2.0) / /	外面は斜位1段縄文。 内面は横位土存斗。	良好	繊維・角閃石・白色粘	黒緑 / 橙	破片資料(底部) 表層
4.5	2	土師器 甕	(2.3) / /	内面土存斗。	良好	赤色粘・白色粘	橙 / 黒・橙	破片資料(口縁部) 表層

2. 榛木沢遺跡



所在地	長野原町大字古森 あび 字ハリヌキ沢 279-3,279-4
開発事業名	太陽光発電所建設
調査期間	令和2年5月21日・6月17日
開発総面積	2,776㎡
調査面積	139.5㎡

第5図 調査地点位置図 (1/5,000)

立地と経過

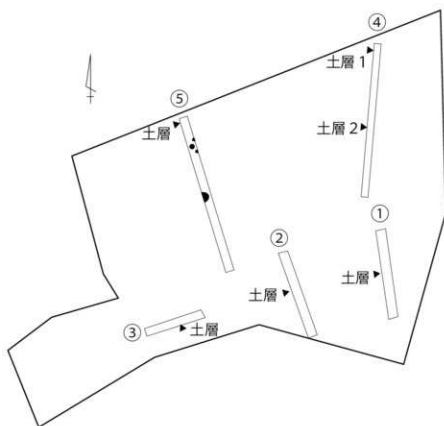
対象地は長野原町の北部、吾妻川流域地帯に属し、吾妻川の右岸段丘上に位置する。標高は753 m位である。対象地が周知の包蔵地「榛木沢遺跡 (No.125)」の範囲内および隣接地であることから開発事業主と協議し、確認調査を行うこととなった。

調査結果

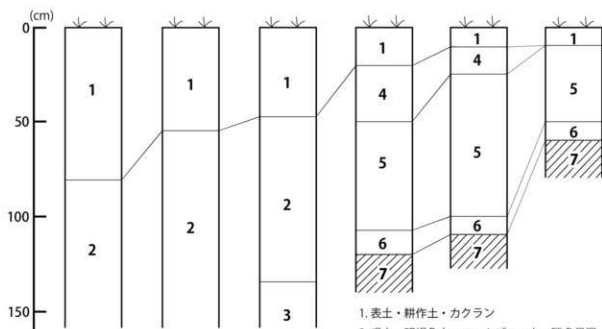
太陽光発電所建設予定地内に試掘坑 (トレンチ) を5本設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認した。

その結果、建設に影響のある深さ (130cm) までに遺構となる掘り込みは確認されなかったため、今回の太陽光発電所建設予定地内で、建設に際し、文化的には支障はないと判断した。

堆積土層は1～5トレで確認し、大きく7層に分けられ、1～2トレは人為的な堆積だと判明した。第3層では黒褐色土に赤褐色土の混じり (田床) が確認され、また1トレ方向から3トレ方向にかけて傾斜になっており、このことから、段丘上に水田が形成されていたことが分かった。また、5トレで掘り込みが4カ所確認された。掘り込みは断ち割ったが、いずれも植栽痕であると考えられ、遺構と判断するに至らなかった。また、4トレ南側はローム層が比較的混っており、傾斜に沿って水の流路になっていた可能性がある。



1トレ土層 2トレ土層 3トレ土層 4トレ土層1 4トレ土層2 5トレ土層



- 1. 表土・耕作土・カクラン
- 2. 盛土・明褐色土・ロームブロック・礫多量混
- 3. 黒褐色土・赤褐色土混
- 4. 暗褐色土・軽石混
- 5. 黒褐色土・軽石少量混
- 6. 漸移層
- 7. ローム

第6図 トレンチ配置図 (1/600)・土層図 (1/20)

ながわにいせき
3. 長畝II遺跡V



所在地	ながのほらまちおおあざよま せあざながわ 長野原町大字与喜屋字長畝 132-2
開発事業名	個人専用住宅
調査期間	令和2年11月30日
開発総面積	209㎡
調査面積	9㎡

第7図 調査地点位置図 (1/5,000)

立地と経過

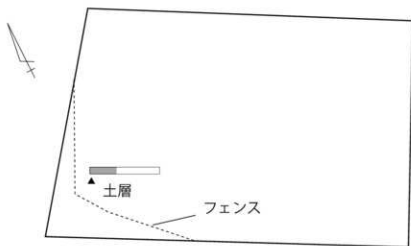
対象地は長野原町の北部、吾妻川流域地帯に属し、吾妻川の右岸段丘上に位置する。標高は656 m位である。対象地が周知の包蔵地「長畝II遺跡 (No.127)」の範囲内であることから開発事業主と協議し、確認調査を行うこととなった。

調査結果

個人住宅建設予定地内に試掘坑（トレンチ）を1本設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認した。

その結果、建設に影響のある深さまでに遺構となる掘り込みは確認されなかったため、今回の個人住宅建設予定地内で、建設に際し、文化的には支障はないと判断した。

堆積土層は1カ所確認し、大きく6層に分けられる。5・6層はシルト層となっており、特に5層では大粒の軽石を含んでいた。土層の水はけが悪く、湿地帯であったと考えられる。



第8図 トレンチ配置図 (1/500)・土層図 (1/20)

B. 包蔵地外

きたかいるさわあぞおおやほら 4. 北軽井沢字大屋原①



所在地	なげのほらまちおむあぞきたかいるさわあぞおおやほら 長野原町大字北軽井沢字大屋原 1353-12,1353-1152
開発事業名	牛舎建設
調査期間	令和2年6月8日
開発総面積	1,874㎡
調査面積	60㎡

第9図 調査地点位置図 (1/5,000)

立地と経過

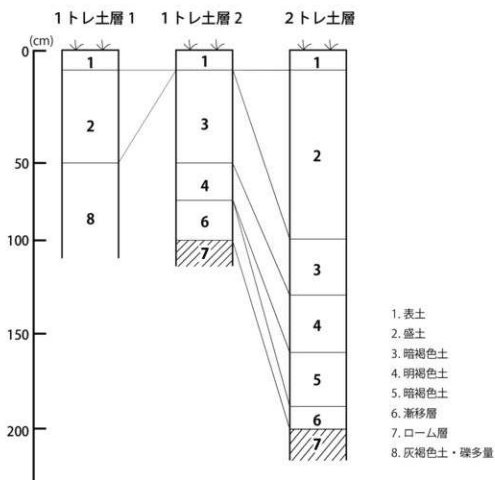
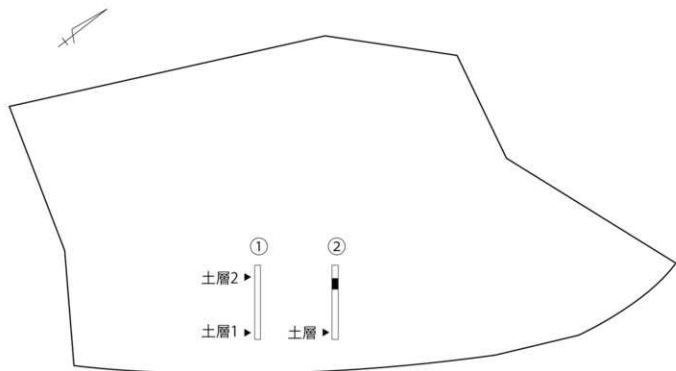
対象地は長野原町の南部、浅間高原地帯に属し、吾妻川の支流、熊川の左岸段丘、地藏川の右岸段丘上に位置する。標高は980m位である。対象地が浅間山由来の江戸時代の火砕流の影響を受けていない地域であることから開発事業主と協議し、試掘調査を行うこととなった。

調査結果

牛舎・堆肥舎建設に伴う造成予定地内に試掘坑（トレンチ）を2本設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認した。

その結果、造成に影響のある深さ（400cm）までに遺構となる掘り込みは確認されなかったため、今回の造成予定地内で、造成に際し、文化財的には支障はないと判断した。

堆積土層は1・2トレで3カ所確認し、大きく8層に分けられる。そのうち、第8層では礫を多量含んだ灰褐色土が確認され、約2万5000年前に浅間山が噴火した際の土石（流れ山）が堆積していると推定される。また、2トレで樹木が倒れた痕跡（風倒木痕）が確認された。



第10図 トレンチ配置図 (1/1000)・土層図 (1/20)

おうくわあぞこすげ
5. 応桑字小菅



所在地 ながのほらまちおおあぞおうくわあぞこすげ
長野原町大字応桑字小菅
2089-3,2085-5,2116

開発事業名 牛舎建設
調査期間 令和2年6月9日
開発総面積 14,209㎡
調査面積 127.5㎡

第 11 図 調査地点位置図 (1/5,000)

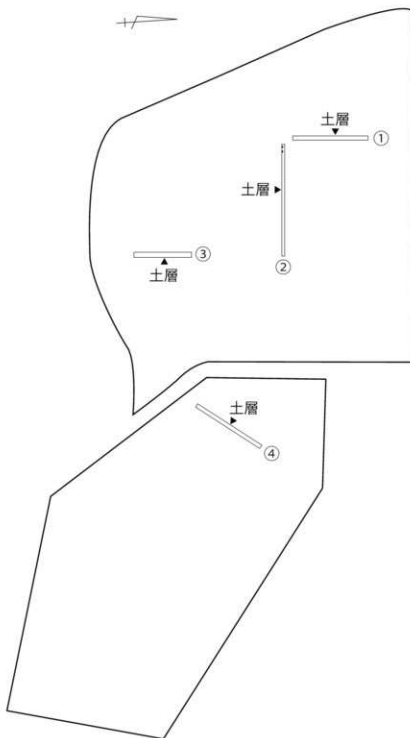
立地と経過

対象地は長野原町の中央部、浅間高原地帯に属し、吾妻川の支流、小宿川の右岸段丘上に位置する。標高は970 m位である。対象地の周知に包蔵地が点在していることから開発事業主と協議し、試掘調査を行うこととなった。

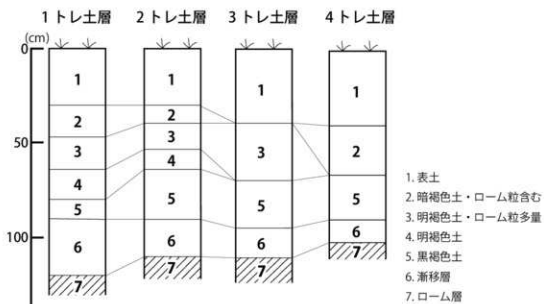
調査結果

牛舎建設予定地内に試掘坑(トレンチ)を4本設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認した。その結果、建設に影響のある深さ(100cm)までに遺構となる掘り込みは確認されなかったため、今回の建設予定地内で、建設に際し、文化財的には支障はないと判断した。

堆積土層は4カ所で確認し、平安時代の天仁元(1108)年に浅間山が噴火した際の火山灰が堆積しているのが確認された。



第 12 図 トレンチ配置図 (1/1000)



第13図 土層図 (1/20)

6. 応桑字滝原



所在地 ながのほらまちおおぞらおうくわあざなきばら 長野原町大字応桑字滝原 1095

開発事業名 太陽光発電所建設

調査期間 令和2年8月19日

開発総面積 2,106㎡

調査面積 40㎡

第14図 調査地点位置図 (1/5,000)

立地と経過

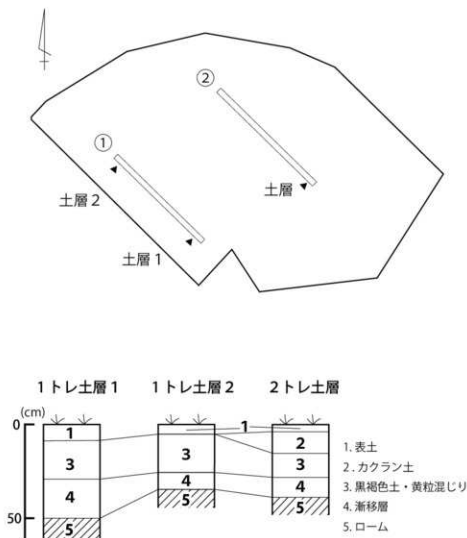
対象地は長野原町の中央部、吾妻川流域地帯に属し、吾妻川の支流、熊川の左岸段丘上に位置する。標高は850m位である。対象地が周知の包蔵地「滝原Ⅰ～Ⅲ遺跡 (No.150～152)」の隣接地であることから開発事業主と協議し、試掘調査を行うこととなった。

調査結果

太陽光発電所建設予定地内に試掘坑（トレンチ）を2本設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認した。

その結果、建設に影響のある深さまでに遺構となる掘り込みは確認されなかったため、今回の太陽光発電所建設予定地内で、建設に際し、文化財的には支障はないと判断した。

堆積土層は1・2トレで3カ所確認し、大きく5層に分けられる。東側から西側にかけて傾斜となっており、周辺に比べて小高くなっている土地であることから、約25,000年前に浅間山が山体崩壊を起こした際の流れ山であると想定される。また表面採集で平安時代の土師器が確認された。このことから、周辺に平安時代の遺跡の存在が想定される。



第15図 トレンチ配置図 (1/600)・土層図 (1/20)

7. 北軽井沢字大屋原②



所在地	長野県長野市大字北軽井沢字大屋原 1353-2911,1353-2912
開発事業名	牛舎建設
調査期間	令和3年3月4日
開発総面積	3,465㎡
調査面積	90㎡

第16図 調査地点位置図 (1/5,000)

立地と経過

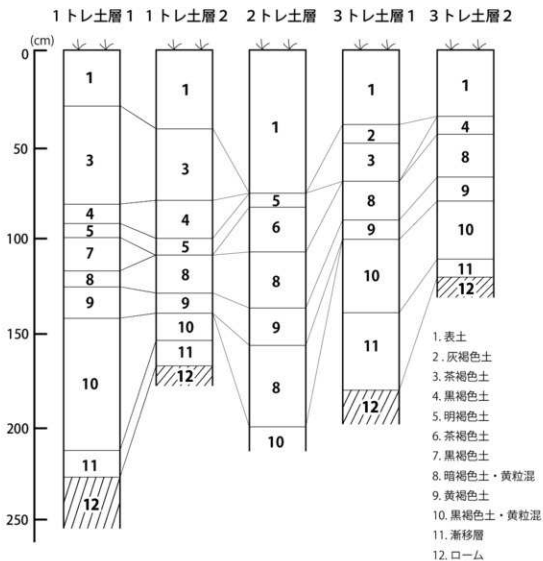
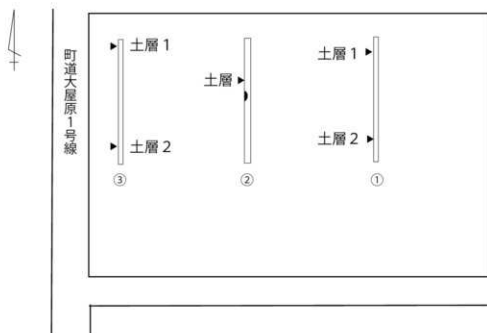
対象地は長野市町の南部、浅間高原地帯に属し、吾妻川の支流、熊川の左岸段丘、地藏川の右岸段丘上に位置する。標高は1,021 m位である。対象地が周知の包蔵地「大屋原第二遺跡 (No.193)・大屋原第三遺跡 (No.194)」の隣接地であることから開発事業主と協議し、試掘調査を行うこととなった。

調査結果

牛舎建設予定地内に試掘坑(トレンチ)を3本設定し、土層の堆積状況や遺構の有無を確認した。

その結果、建設に影響のある深さまでに遺構となる掘り込みは確認されなかったため、今回の牛舎建設予定地内で、建設に際し、文化財的には支障はないと判断した。

堆積土層は1～3トレで計5カ所確認し、大きく12層に分けられる。もともと南側から北側、西側から東側にかけて傾斜となっており、現在の地形とは大きく異なっていることが分かった。表土が厚く堆積しており、地表からローム層まで最深部で250cm近くあるので、耕作等により改変が加えられていったと考えられる。



第 17 図 トレンチ配置図 (1/600)・土層図 (1/20)